

生成AI時代の知財秩序再設計：2026年に向けた5つの最重要論点

内閣府の「知的財産推進計画2026」策定に向けた意見募集（全901件）を分析。社会的関心の高い「生成AI」と、国際競争力に直結する「コンテンツ・ガバナンス」の大集である「コンテンツ・ガバナンス」の2軸で重要論点を整理。

生成AIを中心とした知財秩序の再構築



学習データの適法性と透明性の確保

無許諾学習の制限や、学習元データの開示、権利者への対価還元が支配的な論点。



出力規制と運用ガバナンスの両立

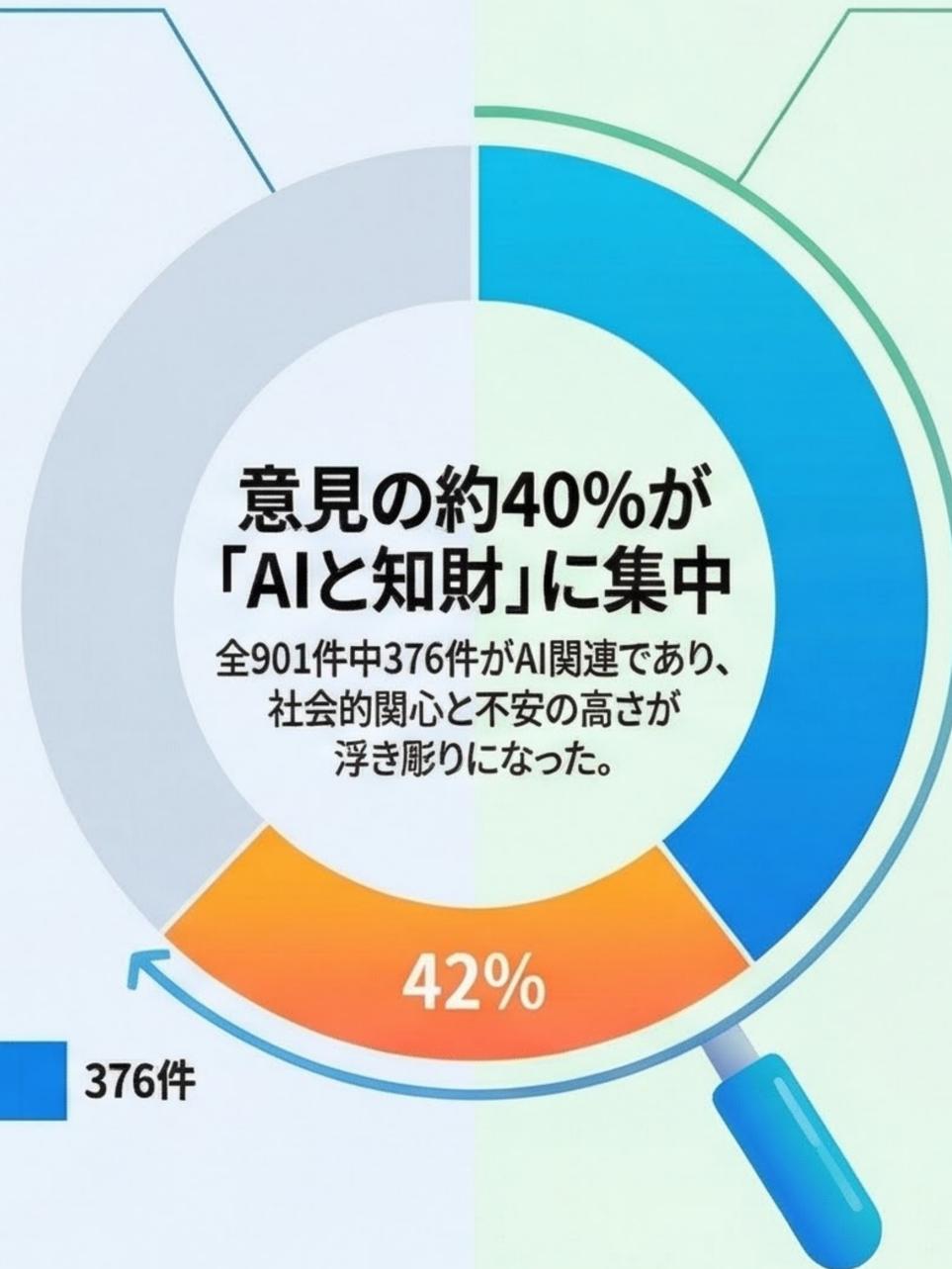
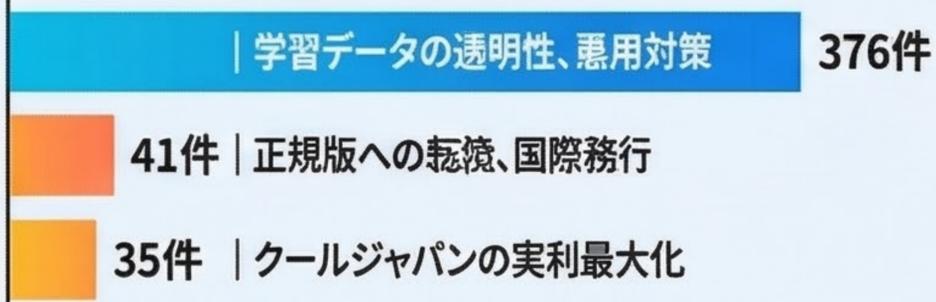
入力規制による萎縮を避けつつ、ディープフェイク等の悪用を防ぐ迅速な削除・救済。

政策の優先度を決定づける意見募集のカテゴリ別分布

AIと知的財産権
(AI & IP Rights)

海賊版・模倣品
(Piracy & Counterfeits)

コンテンツ戦略
(Content Strategy)



国際競争力を高める次世代戦略

海賊版対策から「正規版転換」へのシフト



捕発だけでなく、同時配信や観視品質の向上により正規版を選ばせる施策を重視。

知財・無形資産の可視化とガバナンス

投資家との対話に向け、知的財産による収益性を測る共通指標(KPI)を標準化。



国際標準(SEP)とサプライチェーンの保護

通信・自動車分野等の特許交渉における誠実交渉指針を改訂し、予見性を高める。

